

住民の皆さんができること、行政に望むことについて意見交換しました。

	住民ができること	× (かける)	行政にしてほしいこと
災害への備え 	・災害レベルに合わせていくつかの復興パターンについて考えておく ・防災士の方々と連携して周知の助けになってもらう ・防災の知識を深める ・自分事として知識を持ち、疑問や意見を持つ ・被害時のシミュレーション想定での把握やイメージをすることが大事 ・地震保険の加入が大事		・高知市の公式ホームページは構成が分かりづらいため、改善したらどうか ・防災に携わっている職員は、男女両方の視点が必要である ・インフラ整備に関する情報を周知する ・電気・ガス・ガソリンの供給方法を示す ・災害後の諸々の計画を周知する 
被災時の助け合い 	・多世代交流を活発化させる ・多種多様な意見に対し、聞く耳を持つ ・町内会活動や防災を含めた地域コミュニティの集まりを復活させる（コロナ禍以降途絶えているため） ・地区のリーダーを中心に、多くの人が協力していく	自助・共助・公助	
復興まちづくり	・相続登記が必要 ・被害を受けた家や土地をどのように処分するかを知っておく 		・企業と行政が連携し、生活再建や復旧を支援する協働の取り組みが必要 ・普段の生活を早急に戻すために、企業と協定を結ぶ ・備蓄や道路の復旧等、復興までの一連の流れをまとめたものを作ってはどうか
その他 			・学校の早期再開が重要 ・他県や外国との協力体制が必要

●お知らせ

ホームページ上に掲載した「意見投稿プラットフォーム」でも意見を募集していますので、気軽にご回答ください。



●お問い合わせ先

高知市 防災政策課 事前復興まちづくり担当
 TEL : 088-823-9055 FAX : 088-823-9085
 Mail : kc-080200@city.kochi.lg.jp

高知市 事前復興 まちづくり ニュース VOL.2 R 8. 8. 24

中央地区 事前復興まちづくり計画 第2回ワークショップ (弥右衛門地区) を 開催しました！

地域の方
17名参加

意見交換1は2ページ、意見交換2は3ページ、ワーク4は4ページに表示しています。

7月14日（火）、弥右衛門ふれあいセンターで、中央地区事前復興まちづくり計画第2回ワークショップ（弥右衛門地区）を開催しました。意見交換1では「中央地区の復興ビジョン」、意見交換2では前回の復興パターンから地域の方の意見を反映した「修正復興パターン」、ワーク4では「速やかに復興するために必要なこと」について、みんなで話し合いました。



※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。

●ワークショップの進め方・内容

第1回

令和8年2月28日開催

ワーク1 中央地区の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること

ワーク2 復興パターン2案について

ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像する

第2回

令和8年7月14日開催

意見交換1 復興ビジョンについて

意見交換2 修正復興パターンについて

ワーク4 速やかに復興するために必要なこと

第3回

令和8年11月頃開催予定

意見交換3 最終案について

ワーク5 災害が起きる前からできること

各地区での第1回のご意見から復興ビジョンを3案作成し、意見交換しました。

○ワークショップをもとに考えたビジョン案

案1（第1回ワークショップで提示済み）「コミュニティ・多世代」を主軸とする案

『世代を超えてつながる 安心とにぎわいが持続するまち』

高知市中心部、都市機能誘導区域を含むエリアにおいて、職場と住まいが近接した、歩いて暮らしやすい都市構造を生かしながら、子どもから高齢者まで、多様な人たちが共に暮らせる復興を目指す。通勤や通学、買い物、医療・福祉、文化・交流の機能を身近に備えた高知市中心部に、人々のにぎわいと笑顔が自然と集まり、誰もが自分らしく、楽しく、災害に強く、安心して日常を送ることができるまちへと再生していく。

案2（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「防災・利便性」を主軸とする案

『いつもの便利がもしもの安心へ 利便と防災が融合する災害にも強いまち』

中央地区は、路面電車や充実した周辺施設など、日々の暮らしやすさが大きな魅力となっています。普段の便利な生活を守りながら、それが災害時の安心にもつながるよう備える「災害に“も”強い」をキーワードに、普段の延長線上にある防災」を目指すものです。マンションで暮らす人も、戸建てで暮らす人も。互いの顔が見える距離感の中で、いつまでも自分らしく健やかに暮らせるまちを目指します。

案3（ワーク1～3の意見を踏まえた案）「資源・にぎわい」を主軸とする案

『歴史文化と安心を守り抜く 笑顔あふれるにぎわいのまち』

これまで大切にしてきた「よさこい祭り」や地名に宿る記憶は、地域コミュニティの絆そのものです。この大切な歴史文化を「日々の安心」という土台の上に守り抜き、次の世代へと継承していきます。商店街や市場でお買い物を楽しみ、その活気を育むことは、誰もが暮らしやすい「安全なまち」を創ることに繋がります。安心して歩ける川沿いの散歩道や、誰もがワイワイと交流できる場所をみんなで守り、笑顔がたえないまちを目指します。

○各班で議論したものを、発表していただきました！

グループ1 案1・2を合わせたい

- ・次世代にも繋がる計画としたい
- ・子供を中心に考えたい
（下知地区防災計画 事前復興計画編 スローガンより）
- ・「次世代」、「コミュニティ」を重視したい
- ・にぎわいを大事にしたい

グループ2 案2が良い

- ・「便利」と「防災」を重視したい
- ・「便利」＝道幅が広く、土地も平坦である
- ・案2の中に「にぎわい」の要素を入れるか意見が分かれた

グループ3 案1・2を合わせたい

- ・案1の「コミュニティ」と案2の「利便性」を重視したい
- ・横の繋がりが少ないし、町内会の組織がない地域もあるのでコミュニティ作りが大事
- ・マンション・アパートが多く、転勤の世帯が多いため、被災後に離れてしまう可能性がある
- ・高速道路からのアクセスが良く、利便性が良い

グループ4 まとまらなかった

- ・被災後は災害に強いまちにしたい
- ・笑顔というフレーズが大事
- ・働く場所が大事

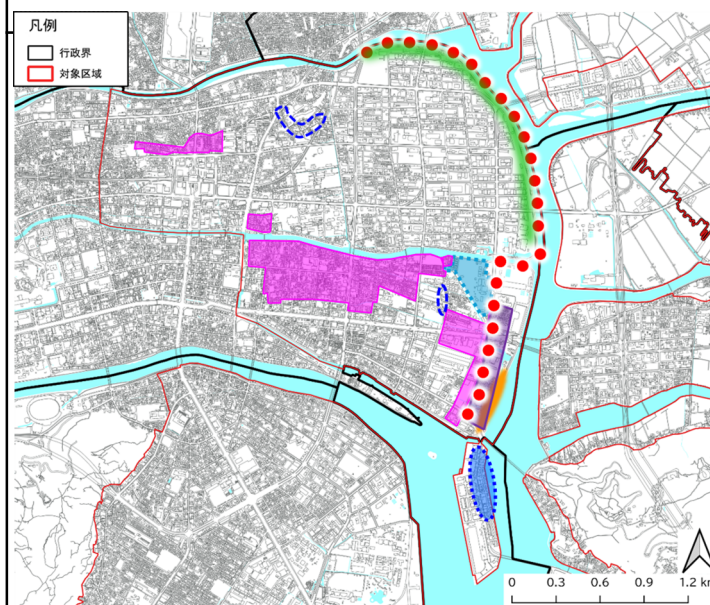


各地区の意見をまとめ、第3回ワークショップで最終的に中央地区のビジョンをお示しします。

修正復興パターン2案について意見を共有しました。

【第1案】二線堤形成案

●広範囲な市街地の津波安全性の向上、二線堤を形成し広範囲に市街地を守る案



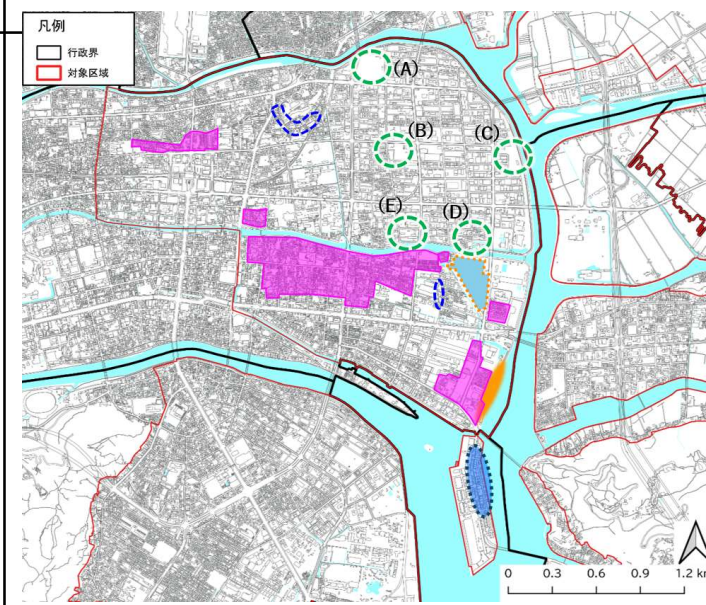
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業
道路基盤整備検討（一部範囲追加） 内陸移転 丸池公園周辺用地の有効活用
空き家を活用した差込み移転 移転元地の有効活用
工業系移転候補地として活用 | <ul style="list-style-type: none"> にぎわい形成
二線堤を活用した、かわまちづくりの検討 二線堤 道路幅整備の検討 にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討 |
|---|---|

【第1案】

- ・弥右衛門エリアに、にぎわい形成エリアができれば楽しそう
- ・二線堤によって全体が守れるため安全である
- ・二線堤は元々住んでいるマンションなどを買う必要がある

【第2案】現地再建案

●面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興を形成する案



- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 防災拠点（弥右衛門公園） 防災拠点（北御座公園：立体都市公園） 防災拠点（南久保公園：立体都市公園） 防災拠点（札場東公園：立体都市公園） 防災拠点（札場西公園：立体都市公園） | <ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業（嵩上げ）
道路基盤整備検討（一部範囲追加） 公営住宅等の整備検討
丸池公園周辺用地の有効活用 道路幅整備の検討 にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討 |
|--|--|

【第2案】

- ・防災拠点を整備すると楽しそう
- ・高齢者等の歩けない人は大変である



【その他の意見】

- ・先に防災拠点を整備、その後で二線堤を整備したらどうか
- ・やえもんアメニティロードは、安全性が高いため残したい（反対に）アメニティロードを無くしてほしい
- ・川沿いににぎわいエリアを作ると、災害時に危ないのではないか
- ・藁工ミュージアム裏の道が狭いため、区画整理をしてほしい
- ・弥右衛門地区は液状化被害によって道路の復旧が大変になると思う
- ・復興期間をできるだけ短くしたい
- ・土地の所有者を明確にする必要がある
- ・工事中の振動による影響が心配である

